



製品安全データシート

会社名: コダック株式会社
担当部門: コンシューマー&プロフェッショナルイメージング事業部
所在地: 東京都中央区新川2 - 27 - 1 (〒104-0033)
電話番号: 03(5540)9000 FAX: 03(5540)2303

緊急連絡先: (財)日本中毒情報センター【中毒 110 番】
(事故に伴い急性中毒の恐れのある場合に限る)
9時から17時まで: 0990(52)9899 (ダイヤル Q2 有料)
又はダイヤル Q2 を利用できない医療施設の場合は 0298(51)9999
これ以外の時間帯: 0990(50)2499 (ダイヤル Q2 有料)
又はダイヤル Q2 を利用できない医療施設の場合は 06(6878)1232

MSDS No.000003636/F/AUS/JP
承認日: 2002年05月09日
作成日: 2003年11月26日

1 | 製品名

コダック フレキシカラー RA 定着補充液 KWCL

CAT No.660069-6	5 リットル用
CAT No.660016-7	10 リットル用
CAT No.660046-4	30 リットル用

2 | 危険・有害性の分類

原液:

該当成分 : チオシアン酸アンモニウム(1762-95-4)、亜硫酸ナトリウム(7757-83-7)、亜硫酸アンモニウム(10196-04-0)を含む。

警告!

甲状腺に損傷をあたえる。
誤飲や皮膚からの吸収は有害。
皮膚と目に炎症を起こす。
強酸化剤や酸と反応すると有害で可燃性のガスを発生する。

使用液:

該当成分 : チオシアン酸アンモニウム(1762-95-4)、亜硫酸ナトリウム(7757-83-7)を含む。

警告!

甲状腺に損傷を与える。
誤飲や皮膚からの吸収は有害。
皮膚と眼に炎症を起こす。
強酸化剤や酸と反応すると有害で可燃性のガスを発生する。

3 物質の特定

原液:

成分	重量%	CAS No.	PRTR政令番号
水	60-65	7732-18-5	
チオシアン酸アンモニウム	15-20	1762-95-4	
チオ硫酸アンモニウム	15-20	7783-18-8	
亜硫酸ナトリウム	1-5	7757-83-7	
重亜硫酸ナトリウム	< 1	7631-90-5	

使用液:

成分	重量%	CAS No.	PRTR政令番号
水	75-80	7732-18-5	
チオシアン酸アンモニウム	5-10	1762-95-4	
チオ硫酸アンモニウム	10-15	7783-18-8	
亜硫酸ナトリウム	1-5	7757-83-7	
重亜硫酸ナトリウム	< 1	7631-90-5	

4 応急措置

- 吸入した場合 : 症状が出たら、空気の新鮮な場所へ移動する。症状に応じて対処する。症状が出たら、医療手当を受ける。
- 眼に入った場合 : 直ちに、多量の水で 15 分以上洗眼する。症状が出たら、医療手当を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに、汚染した衣服、靴を脱ぎながら、多量の水で 15 分以上洗い流す。症状が出たら、医療手当を受ける。汚染した衣服は十分洗ってから使用する。汚染した靴は廃棄するか、十分に洗う。
- 誤飲した場合 : 医師の指示に従い吐き出す。被災者が意識喪失の場合には、何も口から与えてはならない。
直ちに、医師を呼ぶか、中毒 110 番に問い合わせる。

警告!

強酸化剤や酸に接触するとシアン化水素ガスが発生することがあります。

シアン化水素ガスが発生した場合は、患者がシアン化水素ガスに接触した可能性のあることを近くの救急機関や医師に報告する。

5 火災時の措置

- 消火手段 : 水噴霧、二酸化炭素 (CO₂)、粉末消火剤、発砲消火剤
- 火災時の特別対応手段 : 呼吸用保護具と保護衣を着用する。火災や過度の熱により危険な分解物質を生じることがある。
- 有害燃焼物質 : 二酸化炭素、一酸化炭素、窒素酸化物、硫黄酸化物(「危険分解物質」の項も参照)
- 異常火災/爆発の危険性 : なし

6 | 漏出時の措置

多量の水で洗い流すか、不活性物質に吸収させ化学物質廃棄用の容器に回収する。
漏洩箇所を十分拭き取る。

7 | 取扱い・保管上の注意

- 取扱い : 誤って強酸化剤や酸と混合してしまった場合は、ガスを吸い込んではいけません。霧を吸い込まない。眼、皮膚、衣服に付着させない。適度な換気を行う。取扱い後は、十分に手などを洗う。その他、毒劇法の定めるところに従う。
- 清掃の予防措置 : 循環系やタンクの中の液を完全に抜き、水で十分洗ってから洗剤を入れる。藻の発生の抑制やタンクの清掃のため洗剤の濃縮液(例えば漂白剤に含まれる塩素)をいきなり加えると有害なガスが発生することがある。
- 火災や爆発の防止 : 酸化剤から離す。
- 保管 : 密栓して保管する。不適合物質から離して保管する(「不適合物質」の項を参照)。その他、毒劇法の定めるところに従う。

8 | 暴露防止措置

- 許容濃度 : 未制定
- 換気 : 換気の良い場所で取り扱う(10 air changes/時間)。換気速度は使用状態に合わせる。通気が良くない、蒸発面積が広い、噴霧、加熱などの特別な条件では、補助的な集中排気、システムの密閉、呼吸器系の保護が必要になることがある。
- 取扱い : 眼に入れない。皮膚への付着を最小限にする。
- 呼吸器系の保護 : 通常取扱いでは必要なし。有害な分解生成物が発生する恐れがある場合または既に発生している場合には、フルフェース型送気マスクを着用しなければならない。緊急時の対応にはフルフェース型認定保護呼吸器を着用する(「危険性情報」の項を参照)。
- 眼の保護 : 側板付き安全メガネまたはゴーグル保護メガネの着用
- 皮膚の保護 : 不浸透性の手袋と保護衣を着用する。
- 浄化する設備 : 洗眼、身体洗浄の設備(安全シャワー)

9 | 物理・化学特性

	原 液	使 用 液
外 観	液 体	液 体
色	淡黄色	無 色
臭 気	微アンモニア臭	無 臭
比重(水 = 1)	1.17	1.09
蒸気圧(20)	24 hPa (18 mmHg)	24 hPa (18 mmHg)
蒸気密度(空気 = 1)	0.6	0.6
揮発留分(重量)	60 ~ 65%	75 ~ 80%
沸 点	> 100	> 100
水溶性	完 全	完 全
pH	7.5	7.5
引火点	な し	な し

10 | 危険性情報(安定性・反応性)

安定性 : 安定

不適合物質 : 強酸化剤(例えば次亜塩素酸ナトリウム(漂白剤))、強酸(例えば硫酸)、塩基。強酸化剤や酸と接触すると有害なガスを発生する。強酸化剤や強酸と接触すると可燃性物質を発生する。塩基と接触すると可燃性物質を発生する。

危険分解物質 : アンモニア、クロラミン、シアン化物、カルボニル硫化物。

危険重合物質 : 発生しない。

11 | 有害性情報

暴露の影響:

一般 : チオシアン酸アンモニウムを含む。チオシアン化合物に過剰に触れると、甲状腺肥大、新陳代謝の低下、ヒトや動物の甲状腺機能低下の兆候を示す。

吸入 : 通常取扱いでは、危険性は少ない。もし、強酸化剤や酸に触れてシアン化水素ガスが発生したら、めまい、頭痛、速い呼吸、速い脈、意識喪失、麻痺などの症状を引き起こし、極度の場合には、生命に危険をもたらすこともある。強酸に接触したり、加熱すると亜硫酸ガスを発生する。亜硫酸ガスは気道に炎症を起こす。一部の喘息または過敏症の人は呼吸困難に陥ることがある。

眼 : 炎症を起こす。

皮膚 : 炎症を起こす。皮膚を通して吸収すると有害。過敏症の人はアレルギー反応を起こす。

誤飲 : 飲み込むと有害。胃腸系に炎症を起こすことがある。喘息の持病のある人や亜硫酸に敏感な人はげいげいしたり、胸が締め付けられたり、胃の不調、じん麻疹、失神や下痢を起こすことがある。

12 環境影響情報

この項は、輸送中の不慮の事故などにより発生した漏出時の対応について述べるもので、下水道などに排出するための情報ではありません。

本製品の主要成分のデータに基づいて本製品の環境への影響を評価しますが、実際には試してはいません。

水質系に流出した場合、BODは中庸で、酸素を破壊する可能性がある。水中生物への影響は低い。二次廃棄物処理微生物代謝に影響を及ぼす可能性は中庸。一部の植物の発芽や初期の成長に影響を及ぼす可能性は低い。生物分解処理はされにくい。多量の水で希釈すれば、自然環境に放たれても問題はないであろうと思われる。

13 廃棄上の注意

本製品を廃棄する場合は産業廃棄物に該当する。産業廃棄物処分業の免許を持った業者へ産業廃棄物管理票(マニフェスト)を添えて依頼する。

廃棄物に該当する法規:

廃棄物処理法	: 産業廃棄物(廃酸)
水質汚濁防止法	: 生活環境項目
下水道法	: 下水の排除の制限

14 輸送上の注意

Air Transportation. Not Regulated. 規制なし

Class	: -----
UN-No.	: -----
Proper Shipping Name	: -----
Subsidiary risk	: -----
Packing group	: -----
Passenger Aircraft	: -----
Cargo Aircraft Only	: -----

15 適用法規

該当なし。

化学物質管理促進法(PRTR法)	: -----
毒物劇物取締法(毒劇法)	: -----
労働安全衛生法(安衛法)	: -----
消防法危険物分類(消防法)	: -----

16 その他

危険・有害性の評価は、必ずしも十分ではないので、上記の内容は補足の情報と見なし、取扱いには十分注意してください。